



ウメー病気と歴史

ウメは「万葉集」ではサクラの3倍近くの歌が詠まれるなど、古くから愛されています。民家の庭先や公園にもよく植えられているほか、梅干しや梅酒等、食用としてもなじみ深い樹種です。2010年から2016年頃、そんなウメが大量に伐採される事態に陥っていたことをご存じでしょうか。

原 因となったのは「ウメ輪紋ウイルス（プラムポックスウイルス）」（以下PPV）というウイルスで、ウメでは葉に退緑斑点や輪紋を生じ、花弁には斑入り症状が現れます。本病害による大きな問題は、モモやスモモで果実に輪紋が生じたり、早期落果させて大きな農業被害となることです。被害の拡大を防ぐために、一部地域では「緊急防除」として多くの対象樹種が伐採されました。



P PVには治療方法が無く、感染拡大を防ぐためには、罹病してしまった木を伐採するかしかありません。日本で初めて確認された東京都青梅市では、市内の3万6000本以上のウメが伐採され、病原の潜伏期間である3年間は再植栽も禁止されました。現在は感染苗木の移動やウイルスを拡げるアブラムシの防除等、対策が徹底されたことで感染割合は大幅に低下し、2021年3月で「緊急防除」も解除されています。

ヒ トの間で新型コロナが大流行したように、植物の世界でも病気は存在し、時にはこのような大変な事態となることがあります。植物の病気でも大事なことは、早期発見・早期処置です。

○初めの気づきが大事です。気付くことができるようになるための一助となれたら幸いです。

危険性の判断や処置にお困りの場合は、株式会社エコルまでご相談ください。

<https://www.ecol.biz/>